

ごみと戦う人々

さっぽろ
ごみ
奮闘記

毎日、市内の至る所で生じ続けるごみ。地域や施設などでは、わたしたちが捨てたごみと日々向き合い、奮闘する人々がいます。このシリーズでは、そんな「ごみと戦う人々」にインタビューし、その活動や思いに迫っていきます。
[詳細] 環境事業部企画課 ☎211-2912



現場の様子

この日、山本さんのいる町内会は公園掃除の日。笑顔でのあいさつに始まり、作業中も笑い声が絶えないなど、現場は温かさで活気にあふれている。住民同士の交流は活発だ。

Vol. 1 白石区 下白石東町内会 会長 山本 茂樹さん

山本さんが住む町内のごみステーションは、分別や曜日に関係なくごみが捨てられ、あふれている状態でした。そんな状況を解消するため、山本さんはごみステーションの改善に立ち上がりました。



常設のごみステーション廃止という決断

—ごみステーション改善のため、大きな決断を下したと聞きました。

ええ。町内会で議論を重ね、今まで使用していた常設のごみステーションの廃止を決定しました。うまくいく保証もなく不安でしたが、町をきれいにするための大きな決断でした。

—以前使っていたごみステーションを廃止した後は、ごみはどのように出しているのですか？

ご近所同士約6戸を1組にして当番を決め、ごみ収集日当日に当番宅の前に小さく折り畳み可能なごみステーションを設置しています。アパートなどは、町内にある71棟すべてに専用のごみステーションが設置されました。

—町内の皆さんの理解を得るのが大変だったと思います。

そうですね。そのために清掃事務所の助言を得て、しっかり計画を立てました。町内の一軒家113世帯を6~7つに分けて説明会を開催したり、アパートなどは、管理会社にごみステーション

のひどい現状を訴え、協力をお願いする文書を送付したり—。ほかにもビラや看板作製、電話対応など、町内会役員総出で取り組みました。

これらの取り組みが功を奏して、大きな混乱もなく、きれいな町にするという趣旨をみんなが理解してくれました。

—その後の町内はどうなりましたか？

見違えるほどきれいになって住民にとっても喜ばれています。近隣の町内会から「どうやったの?」と聞かれることもあり、この町内会の取り組みを誇りに思います。同様の動きが広がり、札幌全体がきれいになるとうれしいですね。



以前のごみステーション。山のようなごみをガラスや猫が食い散らかし、悪臭もひどかった

☑ CHECK 1



- **Q1** インスタント鍋焼きうどんのアルミ容器は燃やせるごみか?
- **Q2** 灯油18%のポリタンク(中身は空)は燃やせるごみに出してよいか?
- **Q3** 「びん・缶・ペットボトル」は一つの袋に入れて出してよいか?

【答え】1:燃やせるごみが正解 2:出してよい。40%の指定袋に入れて出す 3:一つの袋に入れて出してよい

市のごみ排出量の現状

—目標400g以下—
一人1日当たりの平均排出量
384g

数字はごみ排出ルールが変更になった昨年7月~4月までの廃棄ごみの平均です。